

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
第13回学術大会にあたって

ジェネリック・バイオシミラー時代における最適な薬物療法：
市民と産学官の連携にむけて

2019年7月6・7日（土・日）、長崎大学医学部記念講堂・良順会館において、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第13回学術大会を開催させていただきます。

日本の鎖国時代、長崎に建設された出島は西洋文化・西洋医学を知る唯一の場所でした。出島の医師であったシーボルトが西洋医学による診療を市民に行い、薬剤師ビュルガーが調剤を行った医薬分業発祥の地でもあります。シーボルトの後、モーニッケ、ファン・デン・ブルックを継いだポンペは、基礎科学に立脚した系統的な医学教育や臨床実習を日本人に行いました。日本最古の医学部で、本学術大会を開催できることを光栄に存じます。

戦後の日本は、良質な医療を、安価で容易に受けられる世界に冠たる国民皆保険制度を整備しました。日本の乳児死亡率は世界最低で、平均寿命や健康寿命は世界最高です。しかし、経済基調の変化と少子高齢化により、医療システムの改革が進められています。医療資源を効率化し、良質な医療を継続する一環として、ジェネリック医薬品やバイオシミラーの導入は欠かせないものになっています。

本学術大会では「ジェネリック・バイオシミラー時代における最適な薬物療法：市民と産学官の連携にむけて」をテーマに掲げ、ジェネリック医薬品80%時代への課題と対応、バイオシミラー促進の問題と制度、社会・患者への最適な薬物療法のあり方など、専門家を交えた活発な討論を企画しています。また、社会における認識の共有と新たな対策立案の場として位置付けました。ぜひ、多くの方の積極的なご参加をお願い申し上げます。

長崎は、軍艦島で知られる明治日本の産業革命遺産や、潜伏キリシタン関連遺産など、歴史的な世界遺産も多く、港や夜景、歴史建造物やハウステンボスなど風光明媚な観光の街です。また、卓袱（しっぽく）料理、中華料理、西洋料理、新鮮な魚介類など、美味しい料理が満載です。長崎で学術大会を楽しんでいただくとともに、「和華蘭」（わからん）文化を「ちゃんぽん」（融合）した歴史、食べ物、飲み物などを体験していただければ幸いです。

2019 年 3 月吉日

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第 13 回学術大会

大会長 佐々木 均

（長崎大学病院 教授・薬剤部長）